



Since 1972.2.24

帯広西ロータリークラブ

# 会報

THE ROTARY CLUB OF OBIHIRO WEST  
Weekly Report

<http://www.obihironishi-rc.jp/>

# 2

2012, February

第1936回例会

平成24年2月9日



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

ゲスト 須田 達史 様



## ■会長報告

会長 三野宮 功



皆さんこんにちは。会長報告をさせていただきます。

今日はお忙しい中、帯広5ロータリークラブ、芽室ロータリークラブ、音更ロータリークラブ合同例会にお集まりいただきまして有難うございます。今日は、国際ロータリー世界理解月間の例会といたしまして、講師に須田達史先生をお迎えいたしております。世界理解月間ということで、理解に様々なアプローチがあると思いますが、須田先生からどのようなお話が伺えるか興味津々でございます。

さて、世界の歴史の中で、一つの良い例としてヨーロッパのハプスブルグ家の神聖ローマ帝国が挙げられるのかなと思います。スイス貴族家系から、スイスの農民兵に領土から追い払われるような形で領土をオーストリアに広げ、そこから帝国をどんどん広げていったと言われております。そういったハプスブルグ家ですが、当時のヨーロッパでは戦がつきもの。戦だけでなく、ハプスブルグ家では、婚姻によって領土を拡大していった希な家系と思われれます。特に注目いたしましたのは、女帝マリア・テレジアの代になると義務教育を充実させ、教科書は当時のドイツ語ではなく、領土のその国その国の言葉で書かれたものを採用し、忠実に広げていったということです。ドイツ語を押し付けられることなく世界各地へ散っていったハプスブルグ家の末裔に、NHKの特番でやっておりましたが、「今あなたは何人ですか？」という質問をぶつけますと、結構「ヨーロッパ人です。」という回答が多かった。極端な言い方をすると、ハプスブルグ家の末裔には、国境などはなく、後から国境の線を書かれたという印象があるのではないかと思います。戦ばかりではなく、周りの文化・言語を理解することによって、共通の認識を深めることが出来、世界の理解に繋がるのではないかと考えております。「世界理解」という言葉は意味深長な言葉であります。また、今後も続く永遠のテーマであると思っております。以上、会長報告といたします。



会 長 三野宮 功  
幹 事 奥 敏則  
広報委員長 奥田 頼昌



2012年2月

## 世界理解月間

### たいまつ宣言

1. 我々は 垣根のない交流を目指し 友情の輪を拡げる
1. 我々は 他に依存することなく 自らを発する
1. 我々は 常に変革をもって 行動する
1. 我々は 自己の研鑽の為に 真の奉仕を実践する
1. 我々は 生涯現役であり 活動に引退はない

### ■出席状況報告

月/日	12/1	12/8	12/15	12/22
例 会	1928回	1929回	1930回	1931回
会員総数	60名	60名	60名	60名
出席計算に用いた会員数	58名	59名	60名	59名
ホームクラブ出席	47名	46名	49名	43名
メイクアップ	5名	11名	5名	14名
出席率	89.6%	86.4%	90.0%	96.6%
月平均	90.6%			

### ■ニコニコ献金

2月9日 0円

累計 222,000円  
(1月12日現在)



例会日/木曜日 12時30分～13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)  
 創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

点鐘 帯広西RC 三野宮会長  
開会宣言 帯広西RC 江口SAA  
ロータリーソング(奉仕の理想)  
ビジター紹介 帯広西RC 本田副会長  
講師入場先導 帯広西RC 平田副会長  
ゲスト紹介 帯広西RC 三野宮会長

(株)ヒューマン・パワー・イノベーション 代表取締役  
NPO法人Kリーグインターナショナルネットワークス 代表理事  
須田 達史 様

会務報告 帯広西RC 奥幹事

①帯広東RC、2月7日(火)の例会は2月9日の繰下げ例会と致します。



帯広RC、2月8日(水)の例会は2月9日の繰下げ例会と致します。

帯広北RC、2月10日(金)の例会は2月9日の繰上げ例会と致します。

帯広南RC、2月13日(月)の例会は2月9日の繰上げ例会と致します。

②帯広北RC『創立記念夜間例会開催のご案内』

日時 平成24年2月17日(金) 午後6時30分

場所 ホテル日航ノースランド帯広

③帯広西RC『創立40周年記念夜間例会開催のご案内』

日時 平成24年2月23日(木) 午後6時

場所 北海道ホテル

④RI第2500地区第6分區【IM】開催のご案内

日時 平成24年2月26日(日)

午後1時(受付12時～)

場所 ホテル日航ノースランド帯広

※尚、帯広西RC、2月16日(木)の繰下げ例会と致します。

帯広北RC、2月24日(金)の繰下げ例会と致します。

帯広南RC、2月27日(月)の繰上げ例会と致します。

帯広東RC、2月28日(火)の繰上げ例会と致します。

## プログラム

◇講師経歴紹介 帯広西RC 神田国際奉仕理事

1964年生まれ。長崎出身。幼少より、剣道・柔道・空手と武道を経験。16歳で国際空手道連盟極真会館に入門、19歳で黒帯取得また、18歳で、日本で一番厳しいといわれる特殊部隊である陸上自衛隊習志野第一空挺団に入隊。ここで、最強チームづくりのためには、強い個が不可欠である事を痛感し、後の会社設立を考える発端となったようです。自衛隊除隊

後、20歳でキックボクシングを始め、23歳で日本チャンピオンとなる。空手、キックボクシング、シュートボクシング、K-1のトレーナーとして活躍し、今まで過去20年間で、日本チャンピオン20名、K-1チャンピオンのアンディー・サワーなどの世界チャンピオン8名を輩出しております。これには、自身のセルフコントロール能力を高める「脅威の心身調律メソッド・体幹チューニング」がおおいに関係していると言われております。その後さらに、人間の持つ身体能力と思考能力を最大限導き出す、独自の能力開発プログラムを創案。2007年4月に(株)ヒューマン・パワー・イノベーションを設立し、主に経営者、企業リーダー向けの新たな事業展開を図っておられます。

また、強い「個」を育成し、チーム全体の士気を高め、成果を上げるために、個人のブレない信念と人生観を構築していく「須田塾」を全国で展開。幅広い分野の卒業生が、現在活躍されております。あわせて、「体幹チューニング」においては、医療、美容、健康、スポーツ、福祉の分野において、活用と普及に努めておられます。

## 講演

 **本気で闘えば、本気の友情が生まれる** 

(株)ヒューマン・パワー・イノベーション

代表取締役

NPO法人Kリーグインターナショナル

ネットワークス 代表理事

須田達史様

皆様こんにちは。本日は、このような貴重な場にお招きいただきまして、誠にありがとうございます。ただ今ご紹介いただきました株式会社



ヒューマン・パワー・イノベーション、NPO法人Kリーグインターナショナルネットワークス代表の須田達史と申します。本日は国際奉仕ということで、私が今までやらせていただいております子供たちに対します国際奉仕を話させていただきます。

今ご紹介いただきましたように、武道や格闘技の世界で生きてまいりました。その世界を通して、これから何か恩返しが出来ないかという思いから、世界中の子供たちに格闘技・武道を通して、国際交流を図ってもらいたいと思い、このNPO法人を立ち上

げました。国境を越えた子供たちの交流が如何に大事であるかということ、その思いをお伝えさせていただきたいと思います。「本気で闘えば、本気の友情が生まれる」ということとお話をさせていただきます。大人が闘うと、戦争になります。でも、子供が闘うと、友情になるのです。

皆さんは、小学生のような小さい頃、喧嘩をされた経験をお持ちだと思いますが、子供の時は喧嘩をすればするほど、お互いを分かり合える。敢て、魂と魂をぶつけ合うような場が必要であると、強く実感しておりました。そういった中で、こういったKリーグを立ち上げてまいりました。世界中に武道・格闘技があります。世界中の文化、日本においては相撲、柔道や空手。中国においては、中国拳法、ファンラがあります。タイなら、ムエタイ。韓国ならテコンドー。ブラジルではカポエラという競技があります。それを継承していく子供達を一堂に会して、触れ合うというかぶつけ合うことを発案いたしました。世界中の子供達が、自分の国の民族の国技に誇りを持って戦える場、というものを作っていかうという思いで、Kリーグを立ち上げさせていただきました。言語を超えた体と体のぶつかり合いによって、相手の痛みもお互いに知る。子供の時から戦いをやっていくことによって、大人になって闘う事を止めて欲しいという思いなのです。自分の国に誇りを持ち、子どもの頃から先輩に教わってきた思いをお互いに共有しあう場を、武道・格闘技を通じて伝えていきたいと思っております。K-1と同じように、主に12歳以下のまだ身体も頭も柔らかい子供たちを中心に、5歳の子供もちゃんとアナウンスをし、「青コーナーより…選手入場です。」と言うと、その子はその気になります。「強気」より大事なのは、「その気」なんです。防具を付けて、安全性は勿論最大限重視した上で、各格闘技の特性を一番発揮できるようなルールを設定し行っております。

そして、今日のテーマであります「本気」、一生懸命と本気は違うということをお伝えしております。どう違うかということ、「一生懸命」のメンタリティーというのは、人に言われてもなれる状態のことを言う。「一生懸命」ということは悪いことではないですが、「一生懸命」頑張り過ぎると、だんだんしんどくなります。周りが見えなくなってきました。それに対して、「本気」のメンタリティーは、自らの意思がないとなれない状態です。覚悟が決まっている人は、もう腹が据わっているので、深刻にはならない。「深刻」と「真

剣」は違います。リングへ上がると、真剣勝負の世界になります。真剣勝負をやるからこそ、自分の本気の魂が引き出されていくのではないかと思います。どんな分野においても、最終的に成功する人というのは、全て「本気」の人達ではないかと思っています。恐怖感が常にあります。恐怖の裏返し「真剣」であり、恐怖があるから「真剣」になれる。臆病だから、強くなれるという事を子供たちに伝えております。だから、弱いということは、強くなれることであると伝えてもいます。

そしてKリーグでは、子供たちに「視座」を上げろとっています。「視座」というのは、物を見る立場のことを言いますが、どのぐらいの「視座」で自分自身が物を見ているのでしょうか。例えば、社長の「視座」と社員の「視座」は違います。親の「視座」と子供の「視座」も勿論違う。もっと極端に言いますと、天皇の「視座」と国民の「視座」は違う。「視座」イコール(=)責任でもある。自分自身のものを見る立場が、今現在どこにあるかということ、子供たちに伝えております。

そして「視野」、目に見える範囲のことを言いますが、どの辺りまで見ているのか。日本だけでなく世界各地に子供たちがいて、どのような思いをして苦しい事をしている子供たちが、世界中にいるという事を伝えていきます。そして「視点」。何処から見ているのか、何処を見ているのかで、行動が変わってきます。「視座」が上がれば、「視野」が広がり、「視点」が増える。今まで見えていなかった所まで見えてくる。そうすると、言動・行動が変わってきます。

武道に、「守・破・離」という言葉があります。まず「守」ですが、主に教えられた事を正しく理解し、それをしっかりと身に付ける事を言います。子供たちに話すときは、言い方を替えて、「まず、基本を身に付けなさい。師匠に教えられた事をしっかりと守って、まずは自分自身の基本を身に付けなさい」と言います。

次に、「破」ですが、師に教えられ身に付けた事を特性に合うように修行し、自らの境地を見つけること。基本を身に付けたら、今度は自分の特性、自分の個性をどう引き出していくかということに意識を向けなさいと伝えます。言い方を変えれば、「自分なら出来ることは何だ。それぞれ違う。足の速い子は、走るのが得意。自分の得意な事をもっと磨きなさい」というふうに伝えております。

そして「離」とは、それらの段階を超えて、何もの

